

ÉCOLE POLYTECHNIQUE
PROMOTION X2021
2^{ème} année
Année scolaire 2022-2023

Note :
20

ÉPREUVE ÉCRITE
JAPONAIS
Intermédiaire
B2.2

Jeudi 1er juin 2023
14h – 17h

Durée : 3 heures

Correctrice : K. BRAGHINI

Recommandations importantes :

- **Travaillez sur le présent document**
- Prenez le temps de vous relire
- Écrivez lisiblement et à l'encre

Aucun document n'est autorisé

2022-2023

Épreuve écrite de
JAPONAIS Intermédiaire

Jeudi 1er juin 2023
Durée : 3 heures

Correctrice :
K. BRAGHINI

Nom de l'élève :

Prénom :

NE RIEN ÉCRIRE SUR CETTE PAGE

I. テキストを読んで、下の設問に答えてください。(30.0)

お能にもお茶にも型というものがあります。およそ世の中に、型にはまる、ということくらい理想的なことはありません。なんでも型にはめさえすれば、間違いは、起こり得ないのです。また、型にはまらなければ、型を破ることも出来ないのです。

若い人達は、とかく型にはまることを嫌がります。自由であること、なるほどそれ以上のいいことはないようです。けれども、見渡したところ、世の中には①型にあらざるものはない、といっても言い過ぎではないほど上は宗教から、芸術から、生活に至るまで、型にはまってないものは一つとしてありません。言葉でも、衣類でも、食器でも、法律でも、教育でも、習慣でも、紙でもペンでも。「世の中」という一つの枠は、私達を固く縛り上げています。それも、たった一人で、②人跡絶えた山奥にでも住まぬ以上、そうです。一人でも、人間に会ったら、もうそこに一つの約束が出来上がります。めんどくさい絆を、こんがらかった糸でも切る

()

ように、③ズタズタに切り裂かぬ限り、⑥社会人たる私達は、なんと言おうと、型にはまらないで暮らすわけにはゆきません。思えば、自由ということは、実に寂しいことなのです。

利休も世阿弥も、私達不自由な者からみれば、お茶やお能をつくったということにおいて、うらやむべき幸福な人達であります。おそらく彼らに言わせたら、彼らほど不幸で、寂しい人間はいない、というに決まっています。天才は、いつもたった一人で、話相手をもちません。言っても仕様のないこと、そうかといって、言わないでも仕様のないこと。そういう気持ちを紛らわすために、利休には茶、世阿弥には能が必要でありました。

()

紛らわす、というよりも、もっとせつじつに、芸術がなかったら、彼らは生きてゆけなかった。それだけが頼りで

()

あったのです。一本の茶杓*を削る時でも、利休はおそらく、そういう諦めの心とともに、その竹の一片に彼

()

の肉体と精神を任せきったことと思います。利休はそのささやかなものを自分と同じくらい愛したと同時に、そんなものはどうでもよかったに違いありません。死ぬ時に、「無用の物」といって、愛用した茶碗を壊したのも、利休が、自分の死とともに、茶器も茶道も、みんな一緒に滅びる、ということを感じていたからです。

事実、茶道は利休と共に滅びました。お寺の鐘が鳴るように、鳴った後は、それは音ではなくて響きです。その美しいよいんを少しでも長くとどめておこうとして、後の人々は愚かな努力を試みます。本人にはちっとも

()

型をつくる気はなかったのに、その人々が利休を偲ぶあまりに、④茶道の型をでっち上げたのです。それは、しかし天才ならぬ我々にとって、唯一の、利休へ近づく道であります。型を破る、などということは、ほんとな

()

いえば、⑤利休までもけつとばしてしまうくらいの自信ある、そして利休以上の天才でないかぎり、そんなことは出来ないのです。

* 茶杓 : お茶をたてる時、かきまわして泡を立てたりする、竹で出来た道具。

1. ()の上の、下線の平仮名を漢字に、太字の漢字を平仮名にして()に書いてください。(5.0)

2. 「型にはまる」の反対の意味になる言葉を、テキストの中から見つけてください。(2.0)

3. ①～⑤の言葉を、意味がよくわかるように、もっとやさしい言葉で言い換えてください。(10.0)

①「型にあらざるものはない」⇒ _____

②「人跡絶えた山奥にでも 住まぬ以上」⇒ _____

③「ズタズタに切り裂かぬ限り」⇒ _____

④「茶道の型をでっち上げた」⇒ _____

⑤「利休までもけつとばしてしまうくらいの自信」⇒ _____

4. 筆者は、型というものをどのようにとらえていますか。正しい答えを選んで()に○を書いてください。

(2.0)

- ・ () 何でも型にはめるということが間違いのもとである。
- ・ () 天才だけが型を破ることができる。
- ・ () 茶道や能などの伝統的なものにだけ型がある。

5. 筆者が、⑥「社会人たる私達はなんと言おうと、型にはまらないで暮らすわけにはいかない」と言っているのはどうしてですか。(3.0)

6. 筆者は、利休と茶道を、どうとらえていますか。(3.0)

利休にとっての茶道とは _____

7. 筆者は、普通の人である「私達」と、天才である「利休・世阿弥」をどのように比較していますか。(5.0)

II. 【作文】「型にはまる」というテキストを読んで、あなたはどのように思いましたか。利休は自分の死後は茶道も滅びると信じましたが、21世紀の今も茶道が行われています。どうしてだと思いませんか。600字以上で書いてください。(30.0)



